

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	垂水市立垂水小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	2	1	18	28
児童数	91	82	84	94	98	79	2	530	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力の確かな定着を図る指導法の研究
---------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1～4年生 算数          昨年度からの研究を引き継ぎ、学年TT及び保護者参画による学力向上を図るため。</p> <p>5年生 算数          昨年度からの研究を引き継ぎ、習熟度別少人数指導による学力向上を図るため。</p> <p>6年生 一部教科担任制          小・中学校の接続を円滑に進めることと、本校を含め垂水中学校区3校で進める小中連携の一貫として、6年生での一部教科担任制を実施。【国語・算数(習熟度別少人数指導)・社会・理科・音楽の5教科で実施】</p> <p>1～6年生 国語          本校児童の実態から、各教科・領域・時間を支える「話すこと・聞くこと」の力を高めるために、国語科の指導法改善の研究を進める。</p> <p>基礎学力定着の取り組み          各教科・領域・時間の基盤となる力を育むために、「読み・書き・計算・話す・聞く」力の向上を図るために実施。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

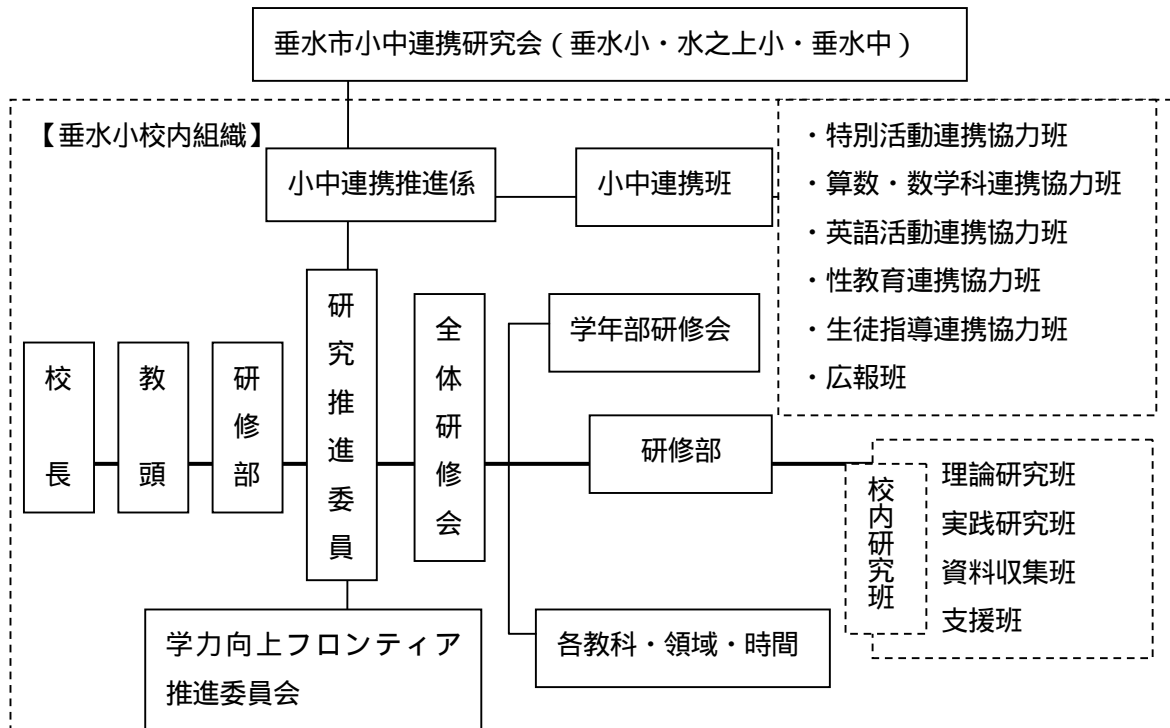
平成14年度	<p>テーマ(研究主題は上記の通り)</p> <p>サブテーマ : 基本的な学習の心構えを身につけ、主体的に学習に取り組む児童の育成</p> <p>評価研究重点 : 児童一人一人の学力を的確に把握し、個に応じた指導に生かすための評価システムの研究</p> <p>研究の視点          【視点1】基礎学力の定着を図るための個に応じた指導と評価の在り方はどうあればよいだろうか。</p>
--------	---

平成14年度	<p>【視点2】基礎学力の定着のための前提条件の確立はどのように図っていけばよいだろうか。</p> <p>【視点3】地域・保護者への説明責任を果たし、積極的な連携・協力を図るためにはどのような取り組みを行っていけばよいだろうか。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝10分間の「習熟の時間」の新設と計画的な取り組み</li> <li>・コース別学習や習熟度別指導を行う「チャレンジタイム」の計画的な取り組み</li> <li>・指導と評価の一体化を目指した評価システムの工夫・改善</li> <li>・TT指導や習熟度別少人数指導の指導方法や指導体制の工夫・改善</li> <li>・学習の心構えの設定と基本的な学習のしつけの設定と共通理解</li> <li>・本校の学力向上の取り組みに関する保護者向け説明会の実施</li> <li>・学力向上の取り組みを紹介する保護者向け研修通信「かけ橋」の定期的発行</li> <li>・授業参観における保護者の授業評価の実施とその意見の反映</li> <li>・基本的な生活習慣の確立のための家庭と学校との連携の推進</li> <li>・地域の人々や保護者の授業参画の推進</li> </ul> <p>(ゲストティーチャーとアシスタントティーチャーの活用)</p> <p>【小中連携の推進】</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ(研究主題は14年度と同じ)</p> <p>サブテーマ : 主体的に学習に取り組む児童を育むための「個に応じた指導」の充実 (「個に応じた指導」の一層の充実を図るために変更)</p> <p>評価研究重点 : 児童一人一人の学力を的確に把握し、個に応じた指導に生かすための 評価規準の再検討と評価方法の研究</p> <p>研究の視点</p> <p>【視点1】基礎学力の確かな定着を図るための取り組みはどのように工夫・改善を図っていけばよいだろうか。</p> <p>【視点2】「個に応じた指導」のための指導と評価の在り方はどうあればよいだろうか。</p> <p>【視点3】地域・保護者への説明責任を果たし、積極的な連携・協力を図るためにはどのような取り組みを行っていけばよいだろうか。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習のしおり作成</li> <li>・評価規準の再検討及び指導計画見直し</li> <li>・評価方法の工夫・改善及び自己評価、相互評価の研究</li> <li>・教科担任制の実践研究</li> <li>・保護者参画の学習の推進</li> </ul> <p>(アシスタントティーチャーの組織化、活用の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携による学力向上の研究推進</li> </ul>
--------	---

平成16年度	テーマ（研究主題は平成14年度と同じ）
	サブテーマ：確かな学力を身につけ、互いに学びあい、高めあう児童の育成
	評価研究重点：子ども自らの「学びの自覚化」を図るための評価の在り方の研究
	研究の視点もしくは仮説
	15年度半ばの段階で、16年度を見据えて設定する予定
研究内容・方法	
・教科担任制の工夫改善	
・自己評価，相互評価を生かした評価のあり方の研究	
・習熟度別指導の充実，工夫・改善	
・保護者参画の学習の推進	
・研究のまとめ，成果と課題集約	

(3) 研究推進体制

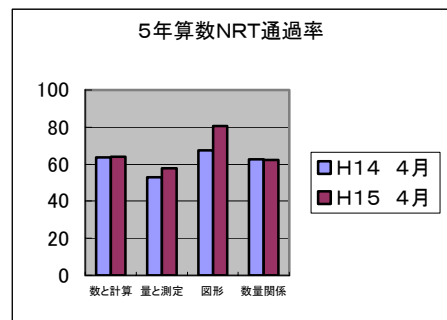
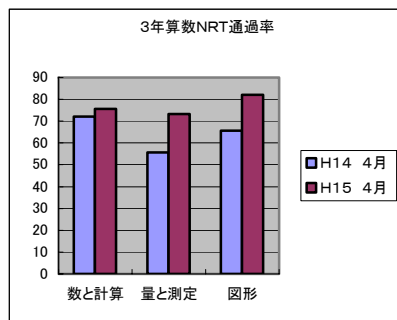


校内研究推進のための校内研究班と小中連携のための小中連携協力班に全職員がそれぞれ入り，両面から「学力向上」の研究に取り組んでいる。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

右のグラフは，昨年度と本年度の全国標準学力検査（NRT）の比較である。通過率は全体的には低い，昨年度より



はどの領域でも向上している。しかし、全体的に低いのが現状であり、全領域で通過率80%を目指し、指導の充実を図っている。

また、設問は、当該学期の学習内容の基礎・基本定着状況を把握するために、本年度より毎学期末に「基礎・基本定着テスト」を作成し、実施している。その結果は、指導法の改善に活用すると共に、児童の長期休業中の家庭学習の充実にも活用している。(平均点)

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1 学期末		8 1	7 9	8 2	8 0	7 8
2 学期末	9 1	8 1	8 1	7 9	8 0	8 1

## 2. 今後の課題

児童の基礎・基本の定着状況のちがいを埋めるための「個に応じた指導」の充実を図ると共に、教材・教具の開発を図る必要がある。また、補足的指導の一層の充実と発展的指導のための教材開発をより積極的に進める必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力検査の実施(標準学力検査1回,観点別検査1回)
- ・標準学力検査は,4月に実施したものを11月に再検査を行い,変容を確認する。
- ・毎学期末に基礎・基本定着テストを実施し,当該学期の学習内容の定着状況を把握する。
- ・習熟の時間におけるタイム・正答率測定により,基礎学力の定着度を把握する。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究発表会の実施(15年9月12日実施)(16年7月2日実施予定)  
市の学力向上推進協議会への提供授業公開として実施
- ・保護者向け説明会(15年3月及び5月実施)
- ・保護者向け研修通信「かけ橋」での定期的報告
- ・鹿児島県教育委員会発行「かごしまの教育21」紙上にて学校の取り組みを紹介
- ・ホームページによる情報公開  
アドレス(<http://www.city.tarumizu.kagoshima.jp/school/shogakkou F.htm>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級 13～18学級  
19～24学級 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T, Tによる指導 一部教科担任制  
その他 (保護者の授業参画による指導)
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科 生活 音楽  
図画工作 家庭 体育 その他(総合的な学習の時間)  
(一部教科担任制は国語・社会・算数・理科・音楽で実施)
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無